



# UHF シンセサイザー ダイバーシティ チューナー

---

## 取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。



電気製品は安全のための注意事項を守らないと、  
火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しております。この取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

## WRR-860C

# 安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品は、まちがった使いかたをすると、火災や感電などにより死亡や大けがなど人身事故につながることがあります。危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

## 安全のための注意事項を守る

5~7ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記されています。

## 定期点検をする

長期間、安全にお使いいただくために、定期点検することをおすすめします。点検の内容や費用については、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。

## 故障したら使わない

すぐに、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご連絡ください。

## 万一、異常が起きたら

- ・異常な音、におい、煙が出たら
- ・内部に水、異物が入ったら
- ・製品を落としたり、キャビネットを破損したときは



- ① 電源を切る。
  - ② 電源ケーブルや接続ケーブルを抜く。
  - ③ お買い上げ店またはソニーのサービス窓口に連絡する。
- ・炎が出たら



- ① バッテリーおよび電源ケーブルを抜き、消火する。
- ② お買い上げ店またはソニーのサービス窓口に連絡する

## 警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。



### 警告

この表示の注意事項を守らないと、火災や感電などにより死亡や大けがなど人身事故につながることがあります。



### 注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

#### 注意を促す記号



火災



感電



注意

#### 行為を禁止する記号



禁止



分解禁止

#### 行為を指示する記号



指示

# 目次

△警告 .....	5
△注意 .....	5
電池についての安全上のご注意 .....	7
概要 .....	8
本機の性能を保持するために .....	9
各部の名称と働き .....	10
電源 .....	13
乾電池 .....	13
乾電池の表示 .....	13
使用時間の累積表示 .....	13
外部電源 .....	14
取り付けと接続 .....	14
アンテナ .....	14
アタッチメントケース .....	14
ショルダーベルト .....	15
設定 .....	16
受信チャンネルを選択する .....	16
受信チャンネルを自動設定する .....	18
RF スケルチレベルを設定する .....	19
スケルチ OFF モードを選択する .....	19
通常のスケルチ機能に復帰させる .....	20
チャンネルプラン .....	21
A/B 型モデルのチャンネルプラン .....	21
A2 型モデルのチャンネルプラン .....	25
34 チャンネル同時運用チャンネルプラン (A/B 型・A2 型 モデル併用) .....	26
チャンネルプランについてのご注意 .....	27
受信システム例 .....	28
24 チャンネル受信システムの例 (A/B 型・A2 型モデル 併用、アンテナ 2 系統) .....	28
30 チャンネル受信システムの例 (A/B 型・A2 型モデル 併用、アンテナ 1 系統) .....	29

各種メッセージ .....	30
仕様 .....	31
保証書とアフターサービス .....	32
保証書について .....	32
アフターサービスについて .....	32

## ⚠ 警告



下記の注意を守らないと、  
**火災や感電により死亡や大けがに**  
つながることがあります。



注意

### アンテナの突起に注意する

本機のボタンを操作するときに目を近づけすぎると、アンテナで目を突き、けがにつながることがあります。



注意

### 使用時は周囲の状況に注意する

周囲の状況を把握しないまま使用すると、事故やけがなどの原因となります。



指示

### 指定の電圧で付属のケーブルを使用する

本機に付属の DC 電源ケーブルは、この取扱説明書に記されている電源電圧でお使いください。異なる電圧、極性で使用したり、DC 電源ケーブルを傷つけると、火災や感電の原因となります。

## ⚠ 注意

下記の注意を守らないと、  
**けがをしたり周辺の物品に損害を与えることがあります。**



禁止

### 雨の当たる場所や油煙、湯気、湿気、ほこりの多い場所では使用しない

上記のような場所や、この取扱説明書に記されている仕様条件以外の環境での使用は、火災や感電の原因となります。



禁止

### 本体内部に水や異物を入れない

水や異物が入ると火災や感電の原因となることがあります。

万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、電源コードや接続ケーブルを抜いて、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。



指示

### 乾電池の交換の際は本機を安定した場所に置く

乾電池の交換は、本機を机の上などに置いて行ってください。電池収納部から本体が外れて落ちると、けがの原因となることがあります。



## 電源の ON / OFF 時には、接続した機器の入力を絞る

### 指示

電源の ON / OFF 時には大きな雑音が発生し、接続した機器あるいはスピーカーなどに損害を与えることがあります。



## 受信待機時には、接続した機器の入力を絞る

### 指示

受信待機中や RF 入力レベルが小さくなったとき（主に RF スケルチレベルを OFF に設定している場合）は、大きな雑音が発生し、接続した機器あるいはスピーカーなどに損害を与えることがあります。



## 分解や改造をしない

分解や改造をすると、火災や感電、けがの原因となる

**分解禁止** ことがあります。内部の点検や修理は、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご依頼ください。

# 電池についての安全上のご注意

電池の使いかたを誤ると、液漏れ・発熱・破裂・発火・誤飲による大けがや失明の原因となるので、次のことを必ず守ってください。

ここでは、本機で使用可能な乾電池についての注意事項を記載しています。

## 万一、異常が起きたら

- ・煙が出たら
  - ① 機器の電源スイッチを切るか、電池を抜く。
  - ② ソニーのサービス窓口に連絡する。
- ・電池の液が目に入ったら  
すぐきれいな水で洗い、直ちに医師の治療を受ける。
- ・電池の液が皮膚や衣服に付いたら  
すぐにきれいな水で洗い流す。
- ・バッテリー収納部内で液が漏れたら  
よくふき取ってから、新しい電池を入れる。

## ⚠ 警告

- ・機器の表示にあわせて田と臼を正しく入れる。
- ・充電しない。
- ・火の中に入れない。ショートさせたり、分解、加熱しない。
- ・コイン、キー、ネックレスなどの金属類と一緒に携帯、保管しない。
- ・水などで濡らさない。風呂場などの湿気の多い場所で使用しない。
- ・液漏れした電池を使用しない。
- ・電池を使い切ったときや、長時間使用しないときは本体から取り出す。

## ⚠ 注意

- ・外装のチューブをはがしたり、傷つけない。
- ・指定された種類の電池以外は使用しない。
- ・火のそばや直射日光が当たるところ、炎天下の車中など、高温の場所で使用、保管、放置しない。

# 概要

WRR-860C は、一台で A 型 /B 型あるいは A2 型を受信帯域とした、放送番組制作用の UHF シンセサイザーダイバーシティチューナーです。多チャンネル同時運用の設定を容易にするため、PLL シンセサイザー技術を駆使し、大型液晶ディスプレイを搭載、ソニーチャンネルプランを採用しました。

## A/B 型モデル

A 型：特定ラジオマイクの陸上移動局  
(FPU-4CH 帯：797 ~ 806 MHz)  
B 型：特定小電力無線局 (806 ~ 810 MHz)

## A2 型モデル

特定ラジオマイクの陸上移動局 (FPU-2CH 帯：779 ~ 788 MHz)

## PLL シンセサイザー方式

簡単なボタン操作で、A/B 型モデルは A 型 71 チャンネルと B 型 30 チャンネルの合計 101 チャンネルの切り替えが、A2 型モデルは A2 型 71 チャンネルの切り替えが可能です。

## 多チャンネル同時運用チャンネルプランを内蔵

ソニー独自の A 型帯域での 10 波同時運用チャンネルプラン、および A 型・B 型・A2 型全帯域を利用した 34 波同時運用チャンネルプランなど、豊富なチャンネルプランがプログラムされており、多チャンネル同時運用でも混信がなく安定

した受信が可能なチャンネル設定が容易に行えます。

## 多彩な情報表示

受信チャンネル、高周波入力レベル、乾電池の残量、累積使用時間（1 分刻み）など、各種の情報を液晶ディスプレイに集中表示します。

## 小型・軽量

高密度実装技術により、小型・軽量化を実現。付属アクセサリーと組み合わせることによってカムコーダーへの取り付けも容易です。

## スペースダイバーシティ方式

ドロップアウトの極めて少ない安定した受信が可能です。

## 切り換え可能な RF スケルチレベル

使用する状況に応じて RF スケルチレベルを選択できます（OFF を含めて 4 段階）。

## トーンスケルチ回路

受信待機時に不要信号やノイズの出力を防ぐトーンスケルチ回路が内蔵されています。

## コンパンダー伝送方式

無線伝送系の外来雑音に強く、広域エリアでの運用が可能です。

## 2 ウェイ電源

単 3 形乾電池 4 本による使用の他、カムコーダーなどに取り付けたとき便利な外部電源端子が用意されています（専用電源ケーブル付属）。

## モニター端子

音声出力をヘッドホンで確認できます  
(モニターレベル調整可能)。

## V シューアタッチメント

付属のアタッチメントケース背面に装着したV シューアタッチメントにより、ワントッチでカムコーダーに取り付けできます。

## 受信チャンネルの自動設定機能

選択したチャンネルグループの周波数帯域をスキャンし、電波を受信したら自動的に停止することによって受信チャンネルを自動的に設定できます。

## 送信機のバッテリーアラームに対応

送信機の乾電池の残量をモニターし、消耗する前にメッセージを表示します。

### ご注意

以下の送信機にのみ対応します。

- WRT-822
- WRT-807

# 本機の性能を保持するために

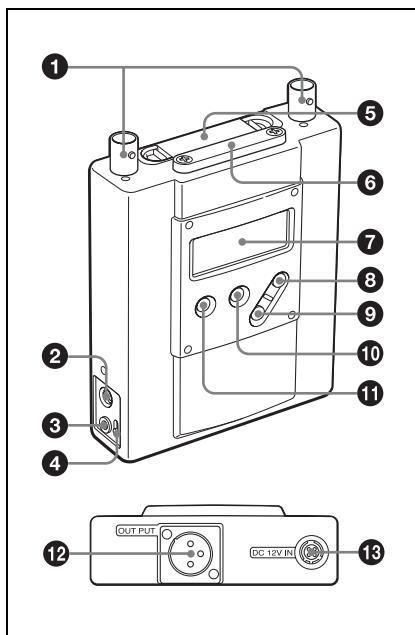
- 本機は、周囲温度 0 ℃～50 ℃の範囲でお使いください。
- 水分やほこりの多い所、活性ガスにさらされる所で使用したあとは、早めに端子部や本機表面のお手入れを行ってください。お手入れを怠ったり、そのような場所で長時間使用したりすると、機器の寿命を縮める恐れがありますので、ご注意ください。
- 本機を電力機器（回転機、変圧機、調光器など）に近接して使用すると、磁気誘導を受けることがありますので、できるだけ離して使用してください。
- 電飾などの照明器具により、かなり広範囲の周波数帯域にわたり電波が発生し、妨害を受けることがあります。この場合、受信機のアンテナの位置やワイヤレスマイクロфонの使用位置により妨害が増減しますので、なるべく妨害を受けない位置で使用してください。
- 本機を騒音の多い場所で使用すると、振動が直接本体に伝わり、雑音発生（マイクロホニック）の原因となり、規定の S/N を満足しない場合があります。影響を受けると考えられるものには次のようなものがありますので、充分に注意してください。
  - 回転機、変圧器などの付近
  - 空調機器より発生する騒音、または風を直接受ける場合
  - PA (Public Address) システムのスピーカー付近

ー スタジオなどに設置していて、スタジオの機器をぶつけたり、たたいたり、物を落としたりした場合

対策としては、影響を受ける条件からできるだけ離す、緩衝材を敷くなどしてください。

- 表面や端子部の汚れは、乾いた柔らかい布で拭き取ってください。シンナー やベンジン、アルコールなどの薬品類は、表面の仕上げを傷めますので使用しないでください。

## 各部の名称と働き



上図は WRR-860C (A/B 型モデル) です。

### ① ANT a/b 端子

付属のアンテナ (2本) を接続します。

### ② MONITOR LEVEL (モニター出力 レベル) 調節つまみ

モニター出力レベルを調節します。

### ③ MONITOR (モニター出力) 端子 ( $\phi$ 3.5mm ステレオミニジャック)

この端子にヘッドホンを接続して、音声出力をモニターできます。

#### ④ POWER (電源) スイッチ

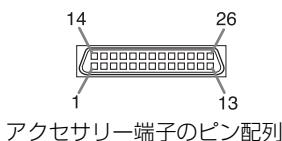
本機の電源（乾電池、外部電源とも）をON/OFFします。

#### ⑤ 電池ケース

単3型乾電池4本を入れます。

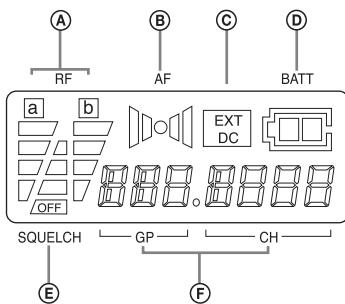
#### ⑥ アクセサリー端子カバー

本機をチューナーベースユニットK-1234に装着するとき、カバーを取り外して使用してください。



#### ⑦ 液晶ディスプレイ

電源を入れるとバックライトが点灯し、A/B型モデルでは「HELLO」、A2型モデルでは「A2 HELLO」と表示され、その後通常表示となります。バックライトは約5秒後に消灯します。



#### Ⓐ RF (高周波) 入力レベル表示

高周波信号の入力レベルを表示します。

ⒶまたはⒷが点灯し、ダイバーシティの切り換えを表示します。

表示				
レベル	5dB $\mu$ ~	15dB $\mu$ ~	25dB $\mu$ ~	35dB $\mu$ ~

#### Ⓑ AF (音声出力) レベル表示

基準レベル以上の音声信号が出力されると点灯します。

#### Ⓒ EXT DC (外部電源) 表示

外部電源が本機に供給されると点灯します。

#### Ⓓ BATT (電池残量) 表示

本機の乾電池の残量を表示します。

◆ 詳しくは、「乾電池の表示」（13ページ）をご覧ください。

#### Ⓔ SQUELCH (スケルチ) 表示

RFスケルチレベルの設定状態を表示します。

◆ 詳しくは、「RFスケルチレベルを設定する」（19ページ）をご覧ください。

#### Ⓕ GP/CH (グループ／チャンネル) 表示

受信チャンネルのグループとチャンネルを表示します。

DISPLAYボタンを押すたびに、受信チャンネルの周波数（FREQ）表示と本機の累積使用時間（TIME）表示が切り換わります。

## ⑧ +/LIGHT (+選択／バックライト) ボタン

## ⑨ - (-選択) ボタン

設定モードで、受信チャンネル（周波数）やRFスケルチレベルを選択します。

通常動作モードでは、+/LIGHT ボタンを押すと液晶ディスプレイのバックライトが約5秒間点灯します。

- ◆ 詳しくは、「設定」（16ページ）をご覧ください。

## ⑩ SET (設定) ボタン

1秒以上押したままになると本機は設定モードになり、設定する項目の表示が点滅します。設定項目の切り換えや、設定終了時もこのボタンを押します。

- ◆ 詳しくは、「設定」（16ページ）をご覧ください。

## ⑪ DISPLAY (表示切り換え) ボタン

液晶ディスプレイのGP/CH表示部の表示内容を切り替えます。ボタンを押すたびに、GP/CH（グループ／チャンネル）表示、FREQ（周波数）表示、TIME（本機の累積使用時間）表示の順に切り換わります。

## ⑫ OUTPUT (出力) 端子 (XLR-3-32C タイプ)

音声信号を出力します。カムコーダー、ミキサー、テープレコーダーなどのマイクロホン入力端子に接続します。

### ご注意

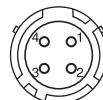
マイクロホン用ファントム電源の供給機能を持ったミキサーへ接続する場合は、なるべくファントム電源はオフにしてお使いください。

## ⑬ DC 12V IN (DC 電源入力) 端子

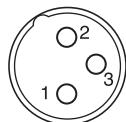
カムコーダーなどの外部電源 (DC 10V ~ 17V) を接続します。外部電源が入力されると、乾電池の有無にかかわらず本機は外部電源で動作します。

### ⚠️ 警告

電源電圧と極性には充分注意して使用してください。



- 1: GND
- 2: NC
- 3: NC
- 4: +12V



- 1: GND
- 2: HOT
- 3: COLD

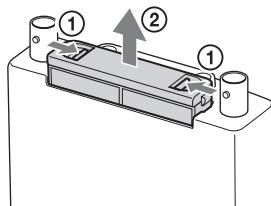
# 電源

## 乾電池

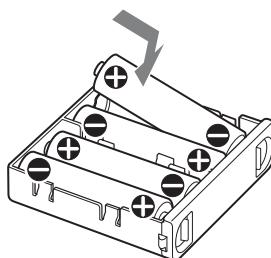
本機は、単3型アルカリ乾電池（LR6）4本で、常温で連続約6時間動作します。

### 乾電池を入れるには

- 1 下図のように電池ケースのつまみを中心に寄せ、電池ケースを抜き取る。



- 2 電池ケース内部の極性表示に合わせて、新しい単3型乾電池を入れる。



付属の予備の電池ケースにも新しい乾電池を入れておくと、すばやく交換することができます。

- 3 電池ケースを本体に戻す。

電池ケースの両側のつまみがロックしたことを確認してください。

### ⚠️ 警告 ⚠️ 注意

乾電池についての安全上のご注意については、7ページをよくお読みください。

## 乾電池の表示

本機のPOWERスイッチをONになると、液晶ディスプレイのBATT表示に本機の乾電池の残量が表示されます。

	1	2	3	4	5
BATT 表示	点灯 	点灯 	点灯 	点滅 	消灯 
乾電池 の状態	良好です。	残量が50%以下です。	残量が20%以下です。	ほとんど消耗しています。	完全に消耗しています。

表示が4の状態になったら、直ちに乾電池を4本とも新しいものと交換してください。

### ご注意

- ・交換した乾電池が新しくない場合は、乾電池の残量が正しく表示されない場合があります。
- ・長時間続けてお使いになるときは、新しい乾電池と交換することをおおすすめします。

## 使用時間の累積表示

使用時間の表示は、本機の電源が入っている時間の合計を時間と分で表示します。乾電池を交換したときに表示を「00:00」に戻しておくと、乾電池の積算使用時間がわかります。

3:52

GP CH

## 使用時間の累積表示をリセットするには

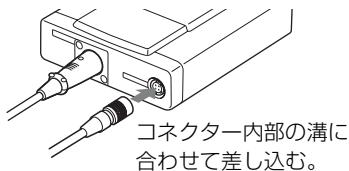
- 1 本機の電源を入れる。
- 2 DISPLAY ボタンをくり返し押して、使用時間表示に切り換える。
- 3 SET ボタンを 1 秒以上押したままにする。

表示が「0」にリセットされます。

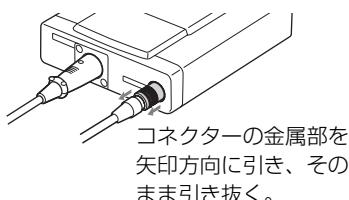
## 外部電源

外部電源（DC 10 V ~ 17 V）で使用する場合は、付属の電源ケーブルを使って、DC 12V IN 端子をカムコーダーなどの DC 電源出力端子に接続します。

外部電源が入力されると、乾電池の有無にかかわらず外部電源動作になります。



## 電源ケーブルをはずすときは

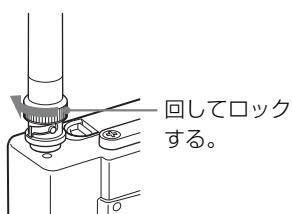
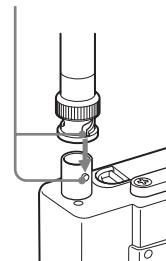


# 取り付けと接続

## アンテナ

ANT a 端子と ANT b 端子に、付属のアンテナを取り付けます。

溝と突起を合わせて差し込む。



## アタッチメントケース

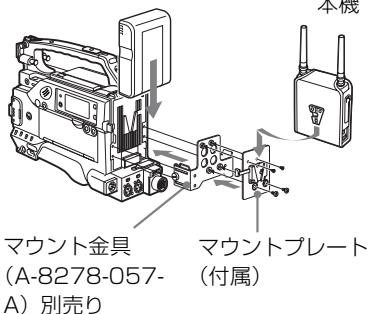
カムコーダーに本機を取り付けて使用するときや、屋外で使用するときには、あらかじめ本機をアタッチメントケースに入れておきます。

## カムコーダーに取り付けるには

リチウムイオンバッテリーパックでカムコーダーを使用する場合は、別売りのマウント金具（A-8278-057-A）と付属のマ

ウントプレートの両方を使って取り付けます。

ソニーリチウムイオン  
バッテリーパック

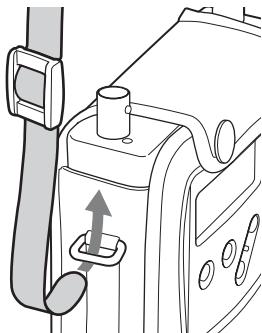


マウントプレートから本機を取り外すには、プレート上のレバーを押します。

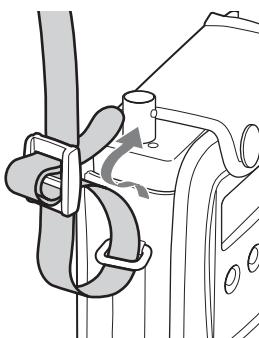
## ショルダーベルト

付属のショルダーベルトをアタッチメントケースに取り付けると、本機を肩から下げたり木の枝などに吊るして使用できます。

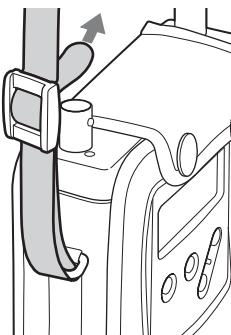
- 1 ショルダーベルトをアタッチメントケース側面の金具に通す。



- 2 ショルダーベルトをストッパーに通す。

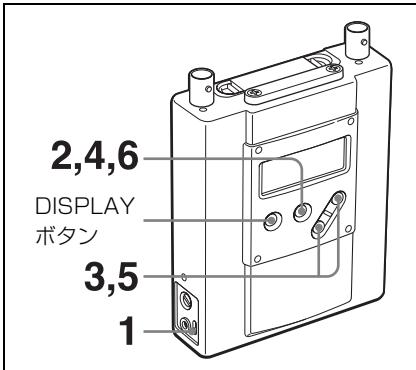


- 3 ショルダーベルトの長さを調節し、ベルトを引いて固定する。



# 設定

## 受信チャンネルを選択する



### ご注意

混信や雑音を防ぐため次の点にご注意ください。

- 同じチャンネルに設定したマイクロホンやトランスマッターを同時に2本(2台)以上使用しないでください。
- 本機を同時に2台以上使用する場合は、必ず同一グループの異なるチャンネルに設定してください。
- 送信機と本機の受信アンテナは、互いに3m以上離して使うことをおすすめします。

### 1 POWERスイッチをONにする。

液晶ディスプレイに、A/B型モデルでは「HELLO」、A2型モデルでは「A2 HELLO」と表示された後、電源をOFFにする前に設定されていた本機の設定が表示されます。

周波数表示や使用時間の累積表示になっているときは、グループ／チャンネル表示に切り換わるまでDISPLAYボタンをくり返し押してください。

### ご注意

電源をON/OFFするとノイズが発生します。本機に接続した機器の入力を絞ってからPOWERスイッチを操作してください。

### 2 SETボタンを1秒以上押したままにする。

本機はグループ選択モードになり、GP表示が点滅します。



### 3 +または-ボタンを押して、希望のグループ名を表示させる。

+ボタンを押すと「グループ名とチャンネル数—A/B型」(21ページ)または「グループ名とチャンネル数—A2型」(25ページ)の順方向にグループが切り換わり、-ボタンを押すと逆方向に切り換わります。(A/B型モデルの場合は、AB9グループで+ボタンを押すとALLに戻り、ALLで-ボタンを押すとAB9グループに切り換わります。A2型モデルの場合は、AH2グループで+ボタンを押すとALLに戻り、ALLで-ボタンを押すとAH2グループに切り換わります。)30秒間どのボタンも押さないと、表示の点滅が止まり、自動的に設定

モードが解除され、表示されているグループ／チャンネルが設定されます。

+ / - ボタンを押し続ければ、連続して切り換わります。



#### グループを選択した時点のチャンネル表示について

- ALL を選択したときは、以前に ALL で設定したチャンネルが表示されます。
- その他のグループを選択したときは、選択したグループ内で一番周波数の低いチャンネルが表示されます。

4 希望のグループが表示されたら、SET ボタンを押す。

本機はチャンネル選択モードになり、CH 表示が点滅します。



5 + または - ボタンを押して、希望のチャンネルを表示させる。

+ ボタンを押すと手順 4 で選択したグループ内で、「グループ名とチャンネル名」(22、25 ページ) の該当する表の順方向にチャンネルが切り換わり、- ボタンを押すと逆方向に切り換わります。



グループ内の一一番周波数の高いチャンネルで + ボタンを押すと一番周波数の低いチャンネルに戻り、一番周波数の低いチャンネルで - ボタンを押すと一番周波数の高いチャンネルに切り換わります。

GP 表示が ALL になっているときは、全チャンネルが 1 波ずつ切り換わります。

#### 周波数を表示させてチャンネルを選択するには

DISPLAY ボタンを押してグループ／チャンネル表示を周波数表示に切り換ると、受信チャンネルを周波数で選択することができます。

例：A/B 型モデルの表示



6 希望のチャンネル（または周波数）が表示されたら、SET ボタンを押す。

点滅していたチャンネル表示が点灯し、設定したグループとチャンネルが記憶されます。

SET ボタンを押さずに 30 秒間放置すると、表示の点滅が止まり、自動的に設定モードが解除され、表示されているグループ／チャンネル（または周波数）が設定されます。

グループ／チャンネル設定が終わると、本機は自動的に RF スケルチレベルの設定モード（19 ページ）に切り換わります。続けて RF スケルチレベルを設定しないときは、SET ボタンを押して設定モードを解除してください。

## 受信チャンネルを自動設定する

指定のチャンネルグループ内で送信中の WRT シリーズ送信機（WRT-867、WRT-860、WRT-822 など）の電波をスキャンし、検出したチャンネルを受信チャンネルとして自動設定することができます。

- 1 「受信チャンネルを選択する」（16 ページ）の操作を行い、手順 5 でチャンネル表示（周波数表示）が点滅している状態で、+ボタンと-ボタンを同時に押す。

本機は、送信機の電波のスキャンを始めます。スキャン中は、チャンネル番号表示（周波数表示）が自動的に順次切り換わります。

スキャン中に、設定された RF スケルチレベル（19 ページ）以上の送信電波が見つかるとスキャンは停止

し、チャンネル番号表示（周波数表示）が点滅します。

- 2 点滅表示しているチャンネル（周波数）に受信チャンネルを設定するときは、そのまま 10 秒間放置する。

表示の点滅が止まり、表示されているチャンネル（周波数）が受信チャンネルとして設定されます。スキャンを続ける場合は、再度 + ボタンと - ボタンを同時に押します。

スキャンはチャンネルグループ内のチャンネル（周波数）を 2 巡すると自動的に終了し、スキャンを開始した時で表示されていたチャンネル（周波数）が点滅表示します。

### ご注意

- スキャン中に受信した信号にトーン信号が含まれていると、スキャンはそこで終了し、その時点で表示されているチャンネル（周波数）が受信チャンネルとして設定されます。トーン信号（32.768 kHz）を含まない妨害電波を受信した場合、スキャンは停止しません。ただし、RF スケルチレベルの設定（19 ページ）が OFF の場合は、トーン信号を含まない電波でもスキャンは停止します。
- 非常に強い電波がある場合、実際のチャンネル（周波数）と異なるところでスキャンが停止することがあります。

## RFスケルチレベルを設定する

RFスケルチレベルを設定することによって、待受信時に生じる妨害電波やノイズの影響をなくすことができます。RFスケルチレベルは、OFF、5 dB $\mu$ 、15 dB $\mu$  または 25 dB $\mu$  から選択できます。本機の初期設定は 5 dB $\mu$  になっていますが、多チャンネル同時運用時やノイズの少ない信号を受信したい場合は設定レベルを上げてください。

- 1** 「受信チャンネルを選択する」（16 ページ）の操作を行い、手順 6 で SET ボタンを押す。

本機は RF スケルチレベル設定モードになります、SQUELCH 表示が点滅します。



受信チャンネルを設定せずに RF スケルチレベルのみを設定するには

通常の動作状態のときに SET ボタンを 1 秒以上押したままにし、GP/CH 表示が点滅を始めたら SET ボタンをさらに 2 回押します。

- 2** + または - ボタンを押して、RF スケルチレベルを選択する。

下表のように、+ボタンを押すとレベルが上がり、-ボタンを押すと下

がります。さらに - ボタンを押すと OFF になります。

表示	OFF	■	■■	■■■
レベル	OFF	5 dB $\mu$	15 dB $\mu$	25 dB $\mu$

- 3** 希望のレベルが表示されたら、SET ボタンを押す。

点滅していたレベル表示が点灯し、設定したレベルが記憶されます。

SET ボタンを押さずに 30 秒間放置すると、表示の点滅が止まり、自動的に設定モードが解除され、表示されているレベルが設定されます。

### ご注意

受信待機中に RF スケルチレベルを OFF に設定すると、大きなノイズが発生して本機に接続した機器あるいはスピーカーなどを破損する場合があります。

## スケルチ OFF モードを選択する

本機には、次のようなスケルチ機能があります。

### (1) RF(高周波)スケルチ

RF(高周波)入力レベルが設定した RF スケルチレベル以下になると、音声出力がカットされます。

### (2) トーンスケルチ

規定のトーン信号が含まれている電波を受信しない限り、音声出力がカットされます。

### (3) ノイズスケルチ

ノイズが一定レベル以上になると、音声出力がカットされます。

通常の設定（19 ページ）によって RF スケルチを OFF にした状態では、上記の(1) と (3) のスケルチは解除され、(2) のトーンスケルチのみが働きます。

通常の RF スケルチ OFF の状態の他にも、使用状況に応じて下記のような設定をすることができます。

## M OFF モード

上記の(1)～(3) のすべてのスケルチを強制的に OFF にします。

DISPLAY ボタンを押しながら本機の電源を入れ、A/B 型モデルでは

「HELLO」、A2 型モデルでは「A2 HELLO」と表示された後、DISPLAY ボタンを放します。

「M OFF」と表示され、すべてのスケルチ機能が OFF になります。

M OFF モードに設定されると、**OFF** が点灯し、RF スケルチレベルの設定ができなくなります。

## T OFF モード

(2) のトーンスケルチのみを OFF にします。

トーン信号のない送信機を使用するときなどに設定します。

SET ボタンを押しながら本機の電源を入れ、A/B 型モデルでは「HELLO」、A2 型モデルでは「A2 HELLO」と表示された後、SET ボタンを放します。

「T OFF」と表示され、(2) のトーンスケルチのみが OFF になります。

T OFF モードに設定されると、**OFF** が点灯しますが、RF スケルチレベルの設定は可能です。

## N OFF モード

(3) のノイズスケルチのみを OFF にします。

-ボタンを押しながら本機の電源を入れ、A/B 型モデルでは「HELLO」、A2 型モデルでは「A2 HELLO」と表示された後、-ボタンを放します。

「N OFF」と表示され、(3) のノイズスケルチのみが OFF になります。

N OFF モードに設定されると、**OFF** が点灯しますが、RF スケルチレベルの設定は可能です。

### ご注意

- ・ 設定内容は電源を切っても保持されます。
- ・ ノイズスケルチが OFF の場合、妨害波によるノイズの発生など、使用時に支障をきたす場合があります。誤って M OFF モードまたは N OFF モードに設定した場合は、通常のスケルチ機能に復帰させてからご使用ください。

## 通常のスケルチ機能に復帰させる

スケルチ OFF モードに設定したときと同じ操作を行うと、本機は通常のスケルチ機能に復帰します。

# チャンネルプラン

## WRR-860C (A/B型モデル)

A型帯域 71 チャンネル、B型帯域 30 チャンネルの合計 101 チャンネル（「A/B型モデルのチャンネルプラン」（21 ページ））のうち、任意に選択した 1 チャンネルを受信します。

## WRR-860C (A2型モデル)

A2型帯域 71 チャンネル（「A2型モデルのチャンネルプラン」（25 ページ））のうち任意に選択した 1 チャンネルを受信します。

いずれのモデルにも、ワイヤレスマイクロホンやトランスマッターを同時に複数使用する場合、混信を起こさないチャン

ネルの組み合わせが豊富に用意されています。はじめにグループを指定し、プログラムされているチャンネルを設定することにより、多チャンネル同時運用が容易に行えます。

ワイヤレスマイクロホンまたはトランスマッターの送信チャンネルを、本機の受信チャンネルと同じチャンネルに設定してご使用ください。

WRR-860C (A/B型モデル) および WRR-860C (A2型モデル) を組み合わせて多チャンネル同時運用を行う場合は、それぞれにチューナーベースユニット K-1234 (A/B型モデル) または K-1234 (A2型モデル) などのご使用をお勧めします。

◆ 詳しくは、「34 チャンネル同時運用チャンネルプラン (A/B型・A2型モデル併用)」（26 ページ）および「受信システム例」（28 ページ）をご覧ください。

## A/B型モデルのチャンネルプラン

### グループ名とチャンネル数 — A/B型

グループ名	A型チャンネル数	B型チャンネル数	合計チャンネル数	グループ概要
ALL	71	30	101	A型、B型帯の全チャンネル
A01	10	0	10	A型チャンネルの同時運用グループ
A02	10	0	10	
A03	10	0	10	
A04	10	0	10	
AL1	7	0	7	最大 34 チャンネルの同時運用グループ (A2 型モデルと併用)
AL2	7	0	7	
AH1	7	0	7	◆ 26 ページ、28 ページ参照
AH2	7	0	7	
BB1	0	6	6	
BB2	0	6	6	

グループ名	A型チャンネル数	B型チャンネル数	合計チャンネル数	グループ概要
AB1	9	2	11	A型チャンネル優先の同時運用グループ（最大12チャンネル）
AB2	9	2	11	
AB3	9	2	11	
AB4	9	2	11	
AB5	7	5	12	
AB6	7	5	12	
B-1	0	6	6	B型標準チャンネルプランの同時運用グループ
B-2	0	6	6	
B-3	0	6	6	
B-4	0	6	6	
B-5	0	5	5	
B-6	0	1	1	
B-7	0	7	7	B型チャンネルの同時運用グループ（最大7チャンネル）
B-8	0	7	7	
BA1	4	6	10	B型チャンネル優先の同時運用グループ
BA2	4	6	10	
BA3	4	6	10	
BA4	4	6	10	
BA5	5	5	10	
BA6	9	1	10	
AB7	7	2	9	WRT-28M チャンネル優先の同時運用グループ
AB8	7	2	9	
AB9	6	2	8	

## グループ名とチャンネル名 — A/B型

### A型、B型帯の全チャンネル

グループ名	ALL											
チャンネル名	A001	A011	A021	A031	A041	A051	A061	A071	B-11	B-25	B-43	
	A002	A012	A022	A032	A042	A052	A062		B-12	B-26	B-44	
	A003	A013	A023	A033	A043	A053	A063		B-13	B-31	B-45	
	A004	A014	A024	A034	A044	A054	A064		B-14	B-32	B-46	
	A005	A015	A025	A035	A045	A055	A065		B-15	B-33	B-51	
	A006	A016	A026	A036	A046	A056	A066		B-16	B-34	B-52	
	A007	A017	A027	A037	A047	A057	A067		B-21	B-35	B-53	
	A008	A018	A028	A038	A048	A058	A068		B-22	B-36	B-54	
	A009	A019	A029	A039	A049	A059	A069		B-23	B-41	B-55	
	A010	A020	A030	A040	A050	A060	A070		B-24	B-42	B-61	

### A型チャンネルの同時運用グループ

グループ名	A01	A02	A03	A04
チャンネル名	A001	A002	A005	A006
	A003	A004	A013	A012
	A009	A008	A015	A014
	A021	A019	A027	A024
	A037	A028	A032	A029
	A042	A035	A038	A043
	A051	A047	A053	A054
	A061	A057	A062	A063
	A064	A060	A066	A067
	A068	A065	A069	A070

### A2型と併用できるグループ（26ページ参照）

グループ名	AL1	AL2	AH1	AH2	BB1	BB2
チャンネル名	A001	A002	A041	A042	B-13	B-61
	A003	A005	A043	A045	B-33	B-42
	A011	A009	A051	A049	B-52	B-34
	A017	A014	A057	A054	B-54	B-26
	A022	A020	A062	A060	B-36	B-45
	A026	A028	A066	A068	B-55	B-46
	A029	A030	A069	A070		

### A型チャンネル優先の同時運用グループ

グループ名	AB1	AB2	AB3	AB4	AB5	AB6
チャンネル名	A001	A002	A005	A006	A003	A004
	A003	A004	A013	A008	A007	A008
	A009	A011	A015	A017	A017	A018
	A016	A014	A027	A022	A024	A025
	A021	A019	A031	A025	A033	A034
	A037	A030	A034	A045	A039	A040
	A046	A043	A054	A049	A057	A058
	A056	A057	A059	A055	B-22	B-31
	A060	A061	A065	A067	B-43	B-52
	B-24	B-53	B-52	B-23	B-15	B-44
	B-36	B-44	B-46	B-55	B-45	B-16
					B-55	B-46

### B型チャンネルの同時運用グループ

グループ名	B-1	B-2	B-3	B-4	B-5	B-6	B-7	B-8
チャンネル名	B-11 B-12 B-13 B-14 B-15 B-16	B-21 B-22 B-23 B-24 B-25 B-26	B-31 B-32 B-33 B-34 B-35 B-36	B-41 B-42 B-43 B-44 B-45 B-46	B-51 B-52 B-53 B-54 B-55	B-61	B-11 B-12 B-31 B-33 B-52 B-54 B-36 B-55	B-21 B-31 B-13 B-14 B-25 B-16 B-46

### B型チャンネル優先の同時運用グループ

グループ名	BA1	BA2	BA3	BA4	BA5	BA6
チャンネル名	A003 A031 A040 A057 B-11 B-12 B-13 B-14 B-15 B-16	A005 A022 A045 A054 B-21 B-22 B-23 B-24 B-25 B-26	A015 A027 A050 A059 B-31 B-32 B-33 B-34 B-35 B-36	A002 A024 A053 A061 B-41 B-42 B-43 B-44 B-45 B-46	A009 A020 A048 A061 B-51 B-52 B-53 B-54 B-55	A006 A008 A011 A018 A070 A032 A036 A049 A055 B-61

### WRT-28M チャンネル優先の同時運用グループ

グループ名	AB7	AB8	AB9
チャンネル名	A-11 A-12 A-13 A-14 A-15 A-16 A-17 B-61 B-35	A-21 A-22 A-23 A-24 A-25 A-26 A-27 B-42 B-26	A-31 A-32 A-33 A-34 A-35 A-36 B-54 B-45

## A2型モデルのチャンネルプラン

### グループ名とチャンネル数 — A2型

グループ名	A2型チャンネル数	グループ概要
ALL	71	A2型の全チャンネル
A01	10	A2型チャンネルの同時運用グループ
A02	10	
A03	10	
A04	10	
AL1	7	最大 34 チャンネルの同時運用グル ーピ (A/B型モデルと併用)
AL2	7	
AH1	7	◆ 26 ページ、28 ページ参照
AH2	7	

### グループ名とチャンネル名 — A2型

#### A2型の全チャンネル

グループ名	ALL					
チャンネル名	A001	A013	A025	A037	A049	A061
	A002	A014	A026	A038	A050	A062
	A003	A015	A027	A039	A051	A063
	A004	A016	A028	A040	A052	A064
	A005	A017	A029	A041	A053	A065
	A006	A018	A030	A042	A054	A066
	A007	A019	A031	A043	A055	A067
	A008	A020	A032	A044	A056	A068
	A009	A021	A033	A045	A057	A069
	A010	A022	A034	A046	A058	A070
	A011	A023	A035	A047	A059	A071
	A012	A024	A036	A048	A060	

#### A2型チャンネルの同時運用グループ

グル ープ名	A01	A02	A03	A04
チ ヤ ン ネ ル 名	A001	A002	A005	A006
	A003	A004	A013	A012
	A009	A008	A015	A014
	A021	A019	A027	A024
	A037	A028	A032	A029
	A042	A035	A038	A043
	A051	A047	A053	A054
	A061	A057	A062	A063
	A064	A060	A066	A067
	A068	A065	A069	A070

## A/B 型と併用できるグループ (26 ページ参照)

グループ名	AL1	AL2	AH1	AH2
チャンネル名	A001	A002	A041	A042
	A003	A005	A043	A045
	A011	A009	A051	A049
	A017	A014	A057	A054
	A022	A020	A062	A060
	A026	A028	A066	A068
	A029	A030	A069	A070

## 34 チャンネル同時運用チャンネルプラン (A/B 型・A2 型モデル併用)

	WRR-860C (A2 型モデル)		WRR-860C (A/ B 型モデル)		
グループ名	AL1 または AL2*	AH1 または AH2 *	AL1 または AL2*	AH1 または AH2*	BB1 または BB2*
チャネル数	7	7	7	7	6
A2 型・A/B 型と併用 同時運用チャンネル数			34		

\* それぞれの帯域でのグループ選択は、他の帯域でのグループ選択とは無関係に独立して行えます。

## グループ組み合わせ例

	WRR-860C (A2 型モデル)		WRR-860C (A/ B 型モデル)		
グループ組み合わせ例 1	AL1	AH1	AL1	AH1	BB1
グループ組み合わせ例 2	AL2	AH2	AL2	AH2	BB2
グループ組み合わせ例 3	AL1	AH2	AL1	AH2	BB1
グループ組み合わせ例 4	AL1	AH1	AL2	AH1	BB2
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮

## チャンネルプランについてのご注意

- グループ ALL は、全チャンネルを連続して切り換えて受信チャンネルを設定するときに使用します。2つ以上のチャンネルを使用する場合、ビートによるノイズが発生する場合があるため、ALL 以外でのグループ設定をおすすめします。
  - 同系統のグループ(例: A01～A04)の組み合わせに限り、複数のグループを同時に使用することができます。この場合、グループ間の距離を 30 m<sup>1)</sup>以上離してください。
  - 2つ以上のシステムで同一グループを使用する場合は、仕切りや障害物がなく見通せる広い空間では、システム間の距離を 100 m<sup>1)</sup>以上離してください。
  - 本機は、コンパンダーシステム専用の受信機です。リニア方式のみの送信機(WRT-67M など)と組み合わせて使用することはできません。
  - AB7、AB8、AB9 グループにおける A 型のチャンネル名は、WRT-28M のチャンネル名と対応させるため、その他のグループとは異なるチャンネル名を使用しています。
- 1) グループ間あるいはシステム間の距離は、使用環境・条件によって異なります。

### <チャンネル名の例>

A011 (A3 衍) : A 型全域を 125 kHz ステップごとに設定したチャンネル名

A-11 (A-2 衍) : ソニー A 型チャンネルプラン (WRT-28M、WRR-28M、WRR-37M にて使用) に基づくチャンネル名

B-11 (B-2 衍) : B 型標準チャンネルプランに基づくチャンネル名

### ご注意

AB7、AB8、AB9 グループの A 型チャンネルは、トーンスケルチ機能に対応していません。トーンスケルチ機能に対応したワイヤレスマイクロホンやトランスマッターに使用する場合でも、電源 ON/OFF 時や受信待機時には本機の音声出力に雑音が発生することがありますので、本機に接続した機器の入力を絞っておいてください。

### WRT-28M と組み合わせて使用するには

WRR-860C をトランスマッター WRT-28M と組み合わせて使用する場合は、以下の点にご注意ください。

- WRR-860C はコンパンダーシステム専用のチューナーです。WRT-28M を CMPD(コンパンダー) モードに設定してください。
- WRT-28M にはトーン信号回路が搭載されていません。WRT-28M を使用するときは、トーン信号がなくても運用可能な AB7、AB8、AB9 グループを使用してください。

AB7 グループ : A-11 ~ A-17 チャンネルを使用するとき

AB8 グループ : A-21 ~ A-27 チャンネルを使用するとき

AB9 グループ : A-31 ~ A-36 チャンネルを使用するとき

- AB7、AB8、AB9 以外のグループで WRT-28M を使用するときは、本機を T OFF モードに設定してください。本機を T OFF モードに設定していな

いと、トーンスケルチが働いて音声出力にミューティングがかかり、液晶ディスプレイに「NOTONE」が表示されます。

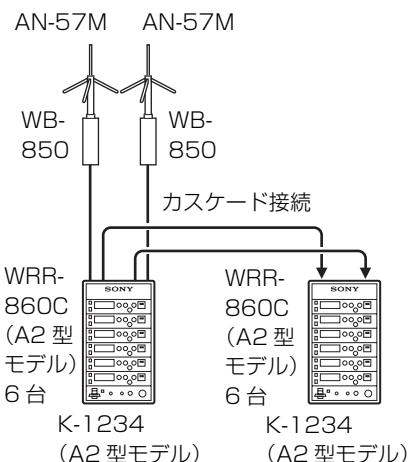
- ◆ T OFF モードについては 20 ページをご覧ください。

### ご注意

WRT-28M は、本機のトーンスケルチ回路に対応していません。WRT-28M の電源 ON/OFF 時や受信待機時には本機の音声出力に雑音が発生することがありますので、本機に接続した機器の入力を絞っておいてください。

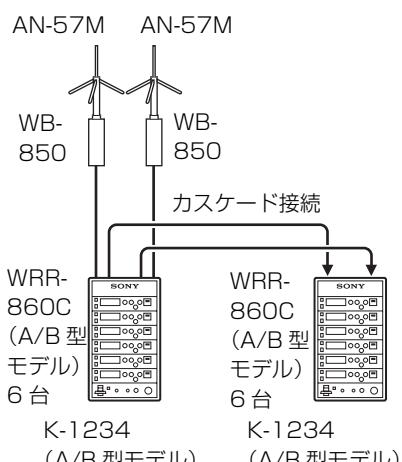
## 受信システム例

### 24 チャンネル受信システムの例 (A/B 型・A2 型モデル併用、アンテナ 2 系統)



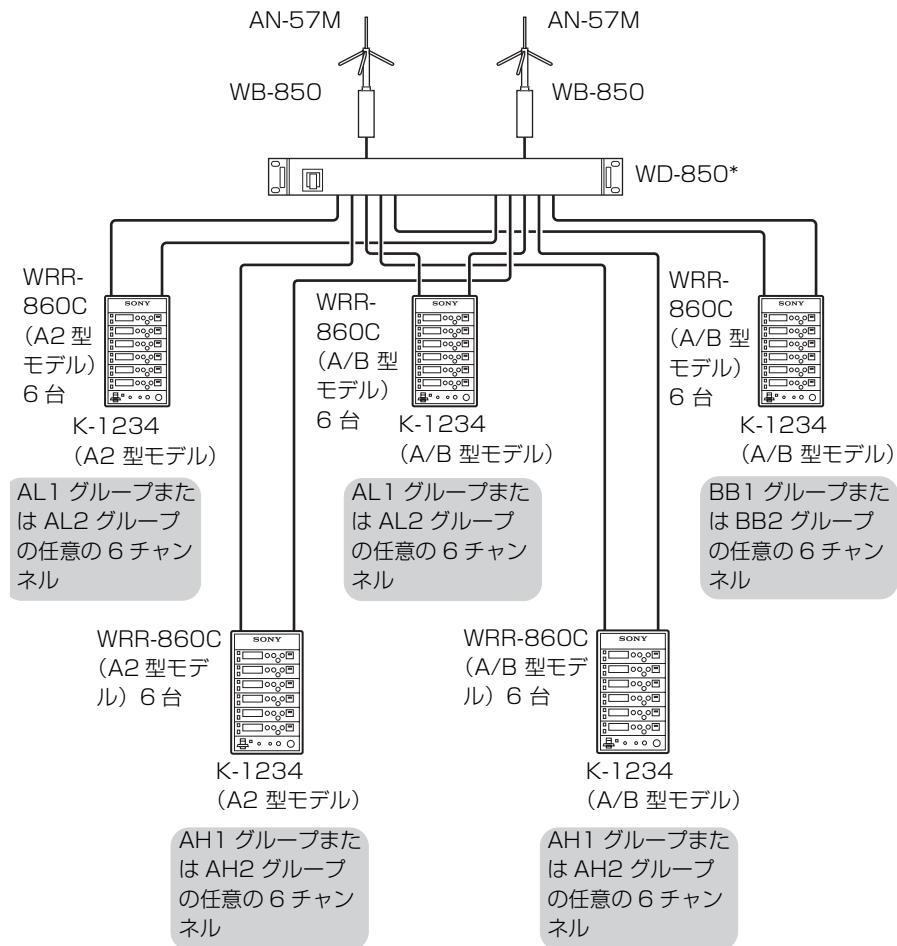
AL1 グループまたは AL2 グループの任意の 6 チャンネル

AH1 グループまたは AH2 グループの任意の 6 チャンネル



AB5 グループまたは AB6 グループの 12 チャンネル (A 型 : 7 チャンネル / B 型 : 5 チャンネル)

## 30 チャンネル受信システムの例 (A/B 型・A2 型モデル併用、アンテナ 1 系統)



\* アンテナディバイダー WD-850 のかわりに WD-880 を使うことにより、34 チャンネル受信システムでの運用が可能になります。

# 各種メッセージ

液晶ディスプレイには、通常表示の他に  
次のようなメッセージが表示されます。

メッセージ	内容	対応
Error 01	バックアップメモリーデータにエラーが発生しました。	本機のデータが初期化されます。グループ、チャンネル、スケルチ機能の再設定をしてください。
Error 02	PLL シンセサイザー回路に異常があります。	お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご連絡ください。
Error 03	電源電圧が許容値を超えています。	指定の電池を使用してください。
NO TONE	トーン信号がないか、32.768 kHz 以外のトーン信号の電波を受信して、音声信号がカットされています。	ご使用のトランスマッターが WRT-28M の場合、AB7、AB8、または AB9 グループを選択してください。それ以外のグループで使用する場合は、本機を T OFF モードに設定してください (20 ページ)。
T-BATT	送信機のバッテリーが消耗しています。	送信機の乾電池を新しいものと交換してください。
T OFF <sup>1)</sup>	T OFF (トーンスケルチ OFF) モードに設定されています。	「スケルチ OFF モードを選択する」 (19 ページ) を参照してください。
M OFF <sup>1)</sup>	M OFF (すべてのスケルチを OFF) モードに設定されています。	ノイズスケルチが OFF になっていると本機の使用に支障をきたす場合があります。M OFF モード以外に設定されている場合は、本機をいったん通常のスケルチ機能に復帰させてから使用してください (20 ページ)。
N OFF <sup>1)</sup>	N OFF (ノイズスケルチ OFF) モードに設定されています。	
MT OFF <sup>1)</sup> MN OFF TN OFF MTN OFF	M OFF、T OFF、N OFF の各モードが組み合わせで設定されています。	

1) 電源投入時、A/B 型モデルでは「HELLO」、A2 型モデルでは「A2 HELLO」と表示された後に表示されます。

# 仕様

## チューナー部

電波型式	周波数変調	34 dB 以上、10 dB $\mu$
回路方式	ダブルスーパー・ヘテロ ダイン方式	入力時 (A-weighted)
受信周波数	A/B 型モデル : 797 ~ 806 MHz 帯 71 チャンネル、806 ~ 810 MHz 帯 30 チャンネル、合計 101 チャンネルの うち 1 チャンネル	60 dB 以上、60 dB $\mu$ 入力時 (A-weighted)
	A2 型モデル : 779 ~ 788 MHz 帯 71 チャンネルのうち 1 チャンネル	ひずみ率 1.0% 以下 (変調周波 数 1 kHz、周波数 遍移 $\pm$ 40 kHz 時)
局部発振	第 1 局発 : 水晶制御 PLL シンセサイ ザー	トーン信号周波数 32.768 kHz
	第 2 局発 : 水晶発振	出力レベル - 58 dBu (600 $\Omega$ 負 荷、変調周波数 1 kHz、周波数遍移 $\pm$ 5.0 kHz 時)
基準周波数偏移	$\pm$ 5.0 kHz	出力インピーダンス 150 $\Omega$ 、平衡型
2 信号選択性	60 dB 以上 ( $\pm$ 250 kHz 離調 時)	出力端子 XLR-3-32C タイプ (1)
スプリアス妨害比	70 dB 以上	26 ピン特殊コネク ター (1)
イメージ妨害比	60 dB 以上	モニター出力端子 $\phi$ 3.5 mm ステレオミ ニジャック (1)
RF スケルチレベル	5、15、25 dB $\mu$ 、 OFF 切り換え	モニター出力レベル 5 mW (推奨ヘッドホ ンインピーダンス 24 ~ 45 $\Omega$ )
アンテナ端子	BNC-R、50 $\Omega$	0dB $\mu$ : 1 $\mu$ VEMF 0dBu : 0.775Vrms
周波数特性	40 ~ 15,000 Hz $\pm$ 3.0 dB	電源部・その他
ディエンファシス	50 $\mu$ s	電源電圧 乾電池 : DC 6V (単 3 型乾電池 4 個使用)
信号対雑音比 (周波数偏移 $\pm$ 5.0 kHz、 変調周波数 1 kHz 時)		外部電源 : DC 12V
		許容動作電圧 乾電池 : DC 3.6 ~ 7.2 V
		外部電源 : DC 10 ~ 17V
消費電流		乾電池 : DC 190 mA 以下 (DV 6V 時)
		外部電源 : DC 100 mA 以下 (DV 12V 時)

乾電池持続時間	連続約 6 時間、ソニー アルカリ乾電池 LR6 (AM3) 使用 時 (25 °C にて)
許容動作温度	0 °C ~ + 50 °C
許容保存温度	- 20 °C ~ + 60 °C
外形寸法	97 × 131 × 33 mm (幅／高さ／奥行き)
質量	500 g (乾電池含む)
付属品	予備電池ケース (1) アンテナ (2) マウントプレート (1) 電源ケーブル (1) アタッチメントケース (1) ショルダーベルト (1) 保証書 (1) 取扱説明書 (1)

## 別売アクセサリー

マウント金具 A-8278-057-A

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります、ご了承ください。



この説明書は、古紙 70% 以上の再生紙を使用しています。

お問い合わせは  
「ソニー業務用製品ご相談窓口のご案内」にある窓口へ

# 保証書とアフターサービス

## 保証書について

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。

## アフターサービスについて

### 調子が悪いときはまずチェックを

この説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはサービスへお買い上げ店にご相談ください。

### 保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

### 保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。